

落語家

さんしょうてい ゆめのすけ
三笑亭夢之助さん



8/31
健康は笑いから

第1講座は、物部会場で『健康は笑いから』と題し、落語家の三笑亭夢之助さんの講演を行いました。

ジョーク・洒落・ユーモア・ナンセンス・ウィットと、笑いを生む5つの技法を使った会話術のお話や、認知症とうつ病の違いなどを紹介していただきました。本職ならではの楽しい話題がたくさん飛び出し、時間を忘れて聞き入る講演でした。

「爪切り屋」メディカルフットケア
JF協会代表理事

みやがわ はるき
宮川 晴妃さん



9/13
足の健康をとおして、
心も体もいきいきと！

第2講座は、香北会場で『爪切り屋』メディカルフットケアJF協会代表理事の宮川晴妃さんに、普段はあまり気にとめていない足の爪の切り方や足のケアで、体の調子を整えていく方法を、映像と実演を交えながら教えていただきました。

歯ブラシでの足の爪周りの洗い方、爪きりの刃の当て方、爪やすりの掛け方など、これから実行しやすいものでした。

第9回
**香美市
市民大学**



8月31日から9月28日にかけて、
第9回香美市市民大学が
開催されました。

東進ハイスクール
東進衛星予備校 現代文講師

はやし おさむ
林 修さん

9/20
いつやるか？今でしょ！

第3講座は、今年の流行語大賞に輝いた「今でしょ」でおなじみ、東進ハイスクール・東進衛星予備校の現代文講師・林修さんにご講演いただきました。

人口比率から始まり、図を使った分析の方法など先生らしいお話を、楽しく聞かせていただきました。また、その日に思ったことを記録し、読み返すことで自己を見直す『自省録』を書く大切さも紹介いただきました。



写真家

まつもと のりお
松本 紀生さん

9/28
オーロラの大地から

第4講座は、『オーロラの大地から』と題し、写真家の松本紀生さんに、アラスカの大地や海、そしてオーロラの写真とともに、厳寒のアラスカで一人だけで過ごしたキャンプのエピソードをお伺いしました。



バックに流れる音楽とともに美しい写真が映し出される度、会場からはため息とも歓声ともつかぬ声が上がっており、心癒やされる講演でした。



【短歌】
岡崎 桜雲 選

うた心失せ為すすべも湧かぬ時ふと垣間見し夕顔の花
九月半ば次郎柿の実青く少なし冬柿は実の多く垂れいて
ほつほつと待宵草の咲ける野の日暮れ急がず独りの暮らし
萱の穂をかすかにゆらす風ありて秋立つを知る空の青さよ
蛍光灯の滲す光はサファイヤか雨に明けたる峠の舗装路
歌を詠むに筆と紙あれば金いらぬ師のお言葉を思い励みし
おさな子がしゃばん玉追ふ日曜日オカリナの音のどこまでも澄む
人住まぬ庭に続きし荒島に黄色コスモス丈なして咲く
老の身の老けるは早し髪白く旺盛にして伸びるは早し
夜の更けを湯に沈み聞く近々と声冴え揃う蟋蟀の声
敬老の日に貰いたる電子辞書音声付きて鳴き声さえも
好きだった貴女はお先に黄泉の国日々の供養に笑顔が浮かぶ
畑を打つ背なに頭に汗にじむ農良着を先ずは洗って昼食
雨降れば一昔前に逝きし母の言葉は重く心に残る
悲しきは君眠る方の夕焼を消ゆる極まで見詰めいしこと
銘木と娘とほめし銀杏の木枝皆切られ来る秋寂し
空蟬の何を庇ふか丸い背我が身を庇ふ私の猫背
影山の里にも秋の訪れて国道通る車なつかし
空海の足音聞こゆ遍路みちかのこ百合のひそと咲きおり
被災地の無惨さ痛く心して地区防災に深まる絆
姉妹都市積丹町に仲間らと高知の風を吹かせています
身を守る術をそれぞれ持ちてをり胡瓜茄子とて吾を刺したり

小原 子川
小野寺朱実
岡村 敏子
都築 忠義
大岸由起子
森 楓
山崎 貴子
岡田美代子
高野 和一
坂上のぶ子
小松 敏子
盛岡 雛子
楮佐古きよ
高田 清子
菲生 灯
山本登美子
森本 幸美
門脇 千代
公文 千恵
谷内 務
吉本 悦子
大石 綾子

傘寿すぎ埋まる手帳の予定表もろもろの会通院も増え
長雨に倒れし稲穂みまはりて老はじつと腕くみて立つ
八十人の教へ児達に囲まるる還暦頭巾の妹凛々し
新しき墓に花挿し手を合はす「又ね」墓標を見上げて去りぬ
憲法をいぢりたがるは何のため九条解釈の変更許さじ
亡夫の面影に寄り添ひてきて七回忌近くの他人と持ちつ持たれつ
花数多つぎつぎ咲くも長雨に西瓜実らず夏は過ぎゆく
宵闇に白粉花のほふ路地歩みつつ亡き貴女を想ふ
若き日の思ひは常に残りて霧島のぼるの歌懐しむ
色紙貼りどころにか読める字を書いて誕生日を祝いたり五歳は
外つ国の形ゆたかにこの丘に鎮まりなべて海を向く石
畑荒れていつの間にかやらヒメジオン昨年はなかりし白の群落
歌の友心づくしのお弁当開いて坐る桜の下段
今日の空もまやかしの青と思ひおり雲のかたちの早も変わりつ
雨多く成長早きこの季節ズッキニの葉に蝸牛数多
衰えは足よりくると知りれば縋りて歩む痛みこらへて
古希過ぎて初めて中止の夏まつり物部の水かさ警戒水位に
友人の手づくり土産嬉しくてゆったり語りう午後のレストラン
墨液に水の一滴滴先ばしる心に遠く増ゆる反古のみ
友達と過ごした二日終わつたが土産話でまた盛りあがる
久々に訪い来し幼のつきぎれるサイダーの泡音たてこぼれる
片かな語あふるる世相を嘆きるし人の歌にも片かなふえて

門田 明子
小松 禮子
古川 安子
武内 弘子
公文 正子
林田 幸子
松中 賀代
竹村 咲子
小松もとも
伊藤 清子
佐竹 玲子
都築 初代
古谷 由美
佐々木真里
山崎 淑子
小野川恵仁
宮地 亀好
野村 典子
町 耿子
吉川 恵
明石 敬恵
岡崎 桜雲

俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載を希望される方は、掲載月の前月1日までに、ご応募ください。
【投稿先】香美市役所総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782-18501（住所記載不要）FAX 53-5958